

# よえもん

※「よえもん」とは、中江藤樹へ親しみを込めて呼ぶ通称のことです。

## 論語から学ぼう

(記念館玄関横案内板に掲示中です)



《 第19号 》 (2022年6月発行)

### 令和4年度前期企画展 「藤樹神社宝物展」より

シリーズ  
よえもん



現在開催中の「藤樹神社宝物展」では、中江藤樹先生の肖像画を展示しています。この肖像画は、大正9年(1920)に描かれたもので、旧大溝町郭内(現在の高島市勝野)に住んでいた、原田友近が藤樹神社に寄付したものです。

藤樹先生の姿は、先生が亡くなった翌年の慶安2年(1649)に、門人である淵岡山が京都の狩野派の絵師に描かされた、藤樹書院が所蔵する最古の肖像画をもとに、描かれました。

これを描いた、京都に住む日本画家の梅戸貞は、正確な資料の提供を求めたため、最古の肖像画と藤樹先生の着ていた衣服が、特別に貸し出されました。



展示室

藤樹先生画像

論語「述而第七之二十四

書 淵田瑞穂さん

子曰を以てて教う。  
文行忠信。



「先生(孔子)は4つのことを教えられた。学ぶこと、実行すること、まごころを尽くすこと、人を欺かないこと。」という意味で、孔子が人に教えるときに大事にしていた4つの事柄を示し、学びと実行の大切さと、実行するときの態度についてあらわしています。

前回、孔子が人と関わる中で気をつけていた4つの事柄を紹介しました。どちらにも、相手のことをよく考えた行動ができるようにという思いがこめられており、人はいつも周りの人々とともに生きているのだということに気づかされます。

私たちは、知らない間に多くの人に助けられています。学びを生かし、自然と助け合い、支え合えるようになりたいものですね。

### 編集後記 新着情報 etc

今月号は、先月号に続いて本施設から南方約500mにあります藤樹書院の年中行事と藤樹書院のあゆみを紹介します。

★「常省祭」【7月23日】…中江家を継いだ三男弥三郎の命日。はじめ岡山藩に仕えて学校奉行を勤め、対馬藩でも学校奉行となって常省先生と慕われました。この日に参詣者一同が「孝経」を拝読します。

★「儒式祭典」【9月25日】…藤樹先生が亡くなったのは旧暦の8月25日。ひと月遅れの命日に儒式にのっとり厳かに執り行われます。

★「藤樹書院のあゆみ」…藤樹先生が書院の屋敷内に簡素な一舎を建て、学則「藤樹規」を掲げたのは大洲藩を辞して帰郷した5年後の32歳のときです。晩年には門弟らの手により新たな講堂が建てられるのですが、半年後に41歳の若さで生涯を終えました。先生の学問が受け継がれていくと思われた矢先に、この地を領していた大溝藩は解散退去を命じました。幕藩体制が固まらない時期に致良知の思想を学ぶ者が集まることを許しておけなかったのです。

《出典：良知館リーフレットより》※次号へ続く

近江聖人中江藤樹記念館

高島市安曇川町上小川69 TEL:FAX (0740)-32-0330

